多剤耐性アシネトバクター国内発生状況概況資料

日本において多剤耐性アシネトバクター属はたびたび検出されているが、これまで国内における多剤耐性アシネトバクター属の分離率を示すデータはほとんどない。平成 13 年度・厚生科研費による「アシネトバクター等多剤耐性グラム陰性桿菌に関する調査研究」（主任研究者：荒川宜親）において、イミペネム・アミカシン・レボフロキサシン 3 剤耐性株は 264 株中 1 株（0.38%）であった。

厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)では、2007 年 7 月以降多剤耐性アシネトバクターのデータを集計している。以下に 2008 年のデータを示す。

＜集計方法＞

2008 年 1 月～12 月の 1 年間において、入院患者のうち以下のいずれかの菌が分離された患者を対象とし集計を行った。

*Acinetobacter* sp.
*Acinetobacter calcoaceticus*
*Acinetobacter baumannii*
*Acinetobacter lwoffii*

多剤耐性アシネトバクター属は、上記の菌のうち以下の条件すべてを満たすものとした。微量液体希釈法で、

①カルバペネム（イミペネム・メロペネム）のいずれかに耐性
②アミノグリコシド（アミカシン）が耐性
③フルオロキノロン（レボフロキサシン、シプロフロキサシン）のいずれかに耐性

＜結果＞

2008 年に検査部門でデータ提出した 507 医療機関のうち、498 医療機関(98.2%)でアシネトバクター属の分離あり。（同一患者による複数回の報告は 1 患者とカウント）

アシネトバクター属分離患者数：14558
多剤耐性アシネトバクター属分離患者数：35
多剤耐性アシネトバクター属分離率：0.24％

多剤耐性アシネトバクター属が分離された 25 医療機関のうち、複数の分離患者が報告されている医療機関は 8、そのうち小規模なアウトブレイクがあったと推定されたのは 1 医療機関であった。

作成：院内感染対策サーベイランス事務局
（国立感染症研究所細菌 2 部内）